

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370104855
法人名	社会福祉法人 リデルライトホーム
事業所名	グループホーム カムさぁ
訪問調査日	平成 21 年 4 月 27 日
評価確定日	平成 21 年 5 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月21日

【評価実施概要】

	4370104855		
法人名	社会福祉法人 リデルライトホーム		
事業所名	グループホーム カムさあ		
所在地 (電話番号)	熊本市龍田陣内3丁目37-7 (電 話)096-337-2941		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3丁目13番12-205		
訪問調査日	平成21年4月27日	評価確定日	平成21年5月27日

【情報提供票より】(21年4月16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	11人	常勤 9人 非常勤2人 常勤換算	9.5人

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,750 円	その他の経費(月額)	光熱費200円/日
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	262 円	昼食 367 円
	夕食	420 円	おやつ 105 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(4月16日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	1名	要介護2	0名
要介護3	5名	要介護4	1名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均 86歳	最低 70歳	最高 98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	江南病院 ・ ピネル記念病院 ・ 伊藤歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

歴史と伝統に支えられた母体施設の慈愛の精神を職員一人ひとりが継承し、常に入居者を主体とした支援体制を確立している。運営者と管理者は職員育成に力を注ぎ資格取得にも惜しみない援助を行い、職員も又その思いに応えるべく、自己のレベルアップがひいては入居者の幸せに繋がるものと確信し日々努力を続けている。入居者に合わせた一日の流れがゆっくりと始まり終える様子を目にする事ができる。本年度は三名の入居者の看取りを行い、ここではぐくまれた職員と入居者の確かな繋がりを残された書類や故人の作品から窺う事ができた。近隣住民、身障者の就労支援事業所、デイサービス、新設特養施設との交流を通じ入居者が地域の中で安定した生活を継続する為に家族と共にゆるぎない支援を行なっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、重度化や終末期に向けた方針の共有が課題となっていた。今年度は家族や医療機関との連携により三名の看取りを行なっている。家族の心情に触れ時期の提示の難しさから更に今後の課題としている。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の外部評価も意義や目的を再確認し、全員が取り組みまとめあげたものである。改善点を明確にし今後の業務に繋がりたいと意欲を持って取り組まれた事が施設長・管理者・職員の聞き取りからも窺うことができた。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>毎回行政や地元の代表者・家族・入居者代表が出席し、入居者の現況とホームの取り組みの報告と、出席者より質問・意見を受けたり地域行事の情報収集を行っている。又、会議の中で外部評価についての説明も行われている。「何か地域交流を行っては？」との、意見を受け、地元郷土料理を子ども達と一緒に作る取り組みを実施した。</p>
	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時や運営推進会議、外部評価を家族の意見要望を受ける機会としている。家族にはモニタリング時に書面で意見を提出してもらい、出された意見や要望についてプランに反映したり、日々のケアに繋げている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的な近隣の散歩や、地域のお寺・神社へ参拝するなど地域の人々とのふれあいを大切に支援している。災害対策でも近隣に実施のプリントを配布し、協力を呼びかける等積極的に取り組んでいる。今後も地域に根ざしたホームとして積極的に取り組む意向である。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には入居者主体の精神が込められ、玄関に掲示していたが本年度職員がさらに身近に感じるよう、タイムカード横にも入居者の顔写真と共に掲示し思いを一つにしている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者の個性や思いを尊重しながら、一人ひとりに対し理念に沿った支援となっているかを日々話し合い、統一したケアの実践の為に職員の質の向上を常に目指している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣や地域のお寺、神社への散歩に出かけ地域の人々とのふれあいの場を支援している。又、ホーム周辺は住宅地となっており、学校の制服姿を入居者に見せたいと親子で訪問されたり、学校帰りに遊びに立ち寄る子ども達の姿もある。新年度は高校や大学生等の実習受け入れを計画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価に対し意欲的に取り組み、今回の自己評価はひと月をかけ全職員で記入しまとめあげている。評価結果を家族に配布し改善に向け早急に着手し、理念の掲示場所の追加や看取りについては、最後まで本人らしく暮らしていただくことを大切に、家族・主治医の協力や理解により三名の方の看取りを行なった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の会議では、管理者と職員も交替で参加し入居者の現況とホームでの取り組みを報告し、参加者から質問や意見をもらう重要な機会と捉えている。「何か地域との交流をやっては？」との意見を受け、子ども達と地元龍田の郷土料理“だご汁会”を行い交流を図った。	○	会議に参加できなかった職員に、資料を回覧し閲覧する事で共有化を図りたいとしている。取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	三年目を迎える介護支援相談員の来所を通じ、市との連携を図り、地域包括支援センターや保健センターの担当者に、運営に対する相談に応じてもらうなどレベル向上に繋がる取り組みを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時に近況や職員異動の報告を行い、毎月写真を同封した報告書により情報の共有に努めている。又、一泊帰宅や家族との外出の際も個々に応じた細やかな支援が行なわれている。一名の方の金銭管理を行い、三ヶ月に一度収支報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会あるごとに家族の意見や要望を聞くことを心がけている。外部評価や運営推進会議もその一つと捉え、今後出された意見や要望に対しては職員で話し合いケアに繋がりたいとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は殆どなく、運営者や管理者は異動についても入居者に与えるダメージを十分配慮し最小限にとどめている。職員は常に入居者の思いに心をはせ、寄り添いながらも入居者主体のケアを実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップへの取り組みを法人全体で支援し、ホーム内外の研修参加はもとより、資格取得の際も実技指導を行い自己実現の為の惜しみない援助を行っている。又、新人育成にも力を入れ、法人の各事業所で実体験を重ねることでケアのあり方を学ぶ機会を得ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会に参加し意見交換や、情報交換を通じ交流を図りながら互いの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同敷地内にあるデイサービス利用からの入居や、入居後も家族からの協力を得て面会の機会を増やすことで、入居者が安心してホームの生活に溶け込めるよう支援している。中には毎週土・日を自宅で過ごされる入居者もおられ、一週間分のケア記録をコピーして渡すなど細やかな支援体制がとられている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一人ひとりの入居者に自然体に関わり、ゆっくり落ち着いた対応をとっている。調査当日に管理者の横で一緒に話を聞き参加される入居者の表情からも、ホームでの関わりがみてとれた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日々の会話や行動の中から個々の思いを引き出したり、家族からの情報によりそれぞれの思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のよりよい生活を支える為に、家族と共に全職員がケアのあり方について連携を図り、三ヶ月～六ヶ月ごとのモニタリングやカンファレンスを行いプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年毎にプランの見直しを行っているが、入居者の状態変化によってはその都度家族や職員間で十分な話し合いが行われ、現状に即したプランを作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同敷地内の障害者支援事業所や近隣の子ども達との交流、希望に応じた訪問理容支援・法人の大型車を利用しての外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じた、かかりつけ医の受診対応を支援している。ホームと各主治医との良好な関係の構築は、本人や家族の安心に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本年度家族や医療機関との連携により、三名の看取りを支援している。家族の心情を思うと終末期の提示が難かしかったと振り返っている。家族も入居者の髭剃りや顔拭きなどを通じ最後の時間を共にした。	○	家族に対して終末期の提示の難しさをどのようなタイミングで行なうかなど今後の課題とし、検討されることを望みません。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者を人生の先輩として敬い、信頼関係を大切に一人ひとりの生活歴や性格に応じた対応を心がけ、呼称も本人や家族の意向を確認している。目線での声かけや必ずノックをしての入室なども確認された。プライバシーに関しての勉強会が法人で計画され参加している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は個々のペースを大切に、その方がどう暮らしたいかを感じ取り支援している。当日もリビングで縫い物をする入居者やソファをベットにしてみんなの中でやすまれる方、家族との面会を楽しまれる方など思い思いの時間を過ごされていた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや片付けなど入居者は出来る事に参加されている。献立も肉・魚の選択や季節感を取り入れ食欲をそそる盛り付けとし、食べやすい大きさにカットする時も一度、目で確認してもらうなど心遣いのある対応をしている。職員も同じ時間に(検食一名)食事を摂り和やかな時間を共有している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じ毎日の入浴支援が可能である。最低週二回の入浴を支援し、必要や希望に応じてシャワー浴や足浴も対応している。今後も安全に配慮しながらニーズに即した体制で支援していきたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	気晴らしをしないでよい生活支援を基本としている。個々の生活歴や希望に応じ食材の下ごしらえや縫い物、身だしなみやおしゃれの支援など喜びや生きがいに繋がるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	高齢化や重度化により、外出の希望や機会は少なくなっているが、可能な入居者は敷地内や近隣の散歩により、できるだけ季節を感じる機会を心がけ取り組んでいる。今後も身体状況に合わせて外出の機会を増やしたいとしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける事への弊害を全職員が認識し、日中は施錠のないケアの実践に取り組んでいる。夕方の帰宅願望や不穏時も日常の本人の状態を理解し、職員は帰宅時バックを持たず退室したり、会話や見守り・寄り添いで廊下を歩いたり、庭を散歩する事により束縛のない生活を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域へ消防訓練実施のプリントを配布するなど地域の協力の必要性を十分認識し実施している。定期的にコンセントや建物自主点検を実施し、まずは火事を起こさない事を最優先に全職員で災害対策に取り組んでいる。スプリンクラー設置も予定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康状態に応じ量、栄養バランス、食事形態に配慮し対応している。高齢者の消化力に考慮し、三食時のご飯の炊き方にも工夫している。又、栄養面だけでなく水分確保は三食や、おやつ時、必要に応じ個別に対応し、摂取量は食事量と共に個人記録に残し共有を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関まわりやリビング・洗面台などにホーム敷地に咲く季節の花が飾られている。静かな環境の中、日当たりのよいぶどう棚のデッキでは日光浴やお茶が楽しめる。中庭を望めるリビングには、あえてテレビを設置せず優しい音楽、会話を楽しめる環境としている。空気設計士による空調も居心地の良さに繋がっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと馴染みの家具や小物・家族の写真・テレビ・大切にしていた衣類等が持ち込まれ、職員の配慮により個々のこれまで、これからを大切にした居室作りが行われている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム カムさあ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本市
記入者名 (管理者)	前田 晃子
記入日	平成 21年 4月 7日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を中心に入居者を主体としたサービス提供を毎日心がけている。入居者は、地域の中で、自分らしくまた、ご自分のペースで生活を送っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	*前回の改善項目。 理念の掲示場所を増やし、職員が理念を日頃目にするように改善した。その他、会議の場においても、理念に基づいているか？考える機会も増えた。今後も、理念を中心にその人らしさを大切にしたケアを提供してゆきたい。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	*前回の改善項目。 地域に対して認知症サポーター養成講座をおこなったり、民生委員協議会を開催するなど、地域に向けた取り組みや、日頃から職員それぞれのケアが、ご家族や地域に理解していただけるような取り組みを継続してゆきたい。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	屋外で近隣の方にであったら、必ずあいさつを交わすようにし、カムさあ職員であることを、近隣の方に知っていただけるよう気軽に立ち寄っていただける雰囲気作りに努力している。また、カムさあ周囲に花を植え、立ち寄りやすい環境を目指している。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお寺や神社の行事毎に出かけて行くようにしている。地域の方と共に活動する場を今後も考え、実施してゆきたい。地域の子供たちも遊びに来てくれるので、人との関わりを大切に地域に着目した、地域に一員になれるよう努力したい。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	カムさあが実施しているコミュニティーカレッジを通じ、地域の高齢者も参加できる機会を設けている。音楽会や学ぶ場を提供できるよう継続した取り組みを行いたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に時間をかけ全職員で取り組むようにしている。評価内容を全員分コピーして、それぞれの意見を参考に話し合いを1日かけている。評価結果は、ご家族にも配布し、日々のケアに生かせるよう、職員は意識して大切に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	*前回の改善項目。サービス内容についても、運営推進会議で報告をし、推進委員さんに意見をいただいている。パワーポイントを用い、写真を含めながらケア上の工夫や取組を報告している。	○	運営推進会議の綴りには、資料及び議事録を綴っているが、職員一人ひとりがファイルを開けて見る習慣がないため、運営推進会議に参加する職員は、内容の理解ができるが、参加できない職員にも内容を伝えるため、運営推進会議の資料を回覧し、閲覧できるように改善する予定である
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回高齢介護福祉課が実施する、介護支援相談員さんに来所していただき、サービスの提供状況やケアに関する相談をしている。サービス内容や運営に関することは、高齢介護福祉課や地域包括支援センター・保健センターの担当者に連絡をするなど、必要な場面で行政へ相談をしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	*前回の改善項目。権利擁護に至る事例がないが、昨年、権利擁護に関する外部研修に職員大半が参加し、権利擁護や後見人について学ぶ機会が持てた。必要な方に、職員一人ひとりが説明できるようには至っていないが、必要な方には説明できる資料を置いて必要な時の備えをしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について、研修の場を設け虐待を防止するようにしている。入浴介護の際、入居者のボディーチェックを行い、身体的虐待については、都度確認を行っている。言葉の虐待については、職員間でも日々、指摘しながら虐待防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約は、できるだけ時間をかけご納得いただけるように努力している。疑問点などには、入居後であっても話をお聞きし安心して入居していただけるよう、これからも努力したい。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃より、ご意見を伺うようにしている。お伺いした内容は日々のケアに反映させるよう運営推進会議の場や、ご家族にお知らせするなど対応を取っている。できるだけ、入居者の方からお話を聞き出し、不満を溜めない働きかけを心がけている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族が来訪された際、近況をご家族にご報告するようにしている。体調不良時は、出来るだけ早く報告し病状について相談するようにしている。毎月、写真を入れた報告書を作成し、ご家族と情報を共有できるよう努めている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第三者評価によるアンケート調査も良い機会であると考え、アンケートへの協力依頼を行っている。3ヶ月～6ヶ月毎にモニタリングを行い、ケアについて書面でご意見をお伺いするようにしている。頂いたご意見については、カンファレンスやモニタリング等で、意見を取り入れるようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝、運営者とミーティングを行い、運営者は管理者に意見を求める機会を設けている。また、管理者は、職員に意見を求め、総合的により良い運営を目指している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>全ての職員は、入居者の状況に合わせ、柔軟な対応をしている。勤務調整も多いが、それぞれが、勤務調整の必要性を理解し、協力している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、認知症高齢者が受けるダメージを理解しているため、馴染みの関係を尊重しながら、職員の異動に配慮し、離職は殆どないため、ダメージを最小限にしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を中心に、職員個々のスキルを運営者と管理者が判断し、施設外の研修にも参加する機会がある。運営者も職員教育には熱心に対応してもらえるため、場合によっては直接的な指導も行っている。また、新人職員には、新人プログラムを定め実施している。法人としても職員教育には力を注いでいる。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	*前回の改善項目。生活圏域にある、同一法人と合同でイベントを行い、それぞれの視点で学びを深めている。同じ龍田校区にある地域のグループホームとは、直接交流がないが熊本市グループホーム運営協議会で意見交換や事例紹介・事業所が抱える問題点など話し合う機会が定期的にある。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員一人ひとりが職場環境を考えながら職務にあたるようにしている。日頃からストレスを溜めないよう、ケアを通じお互いを褒めるように職員全員で心掛けている。法人内にあるクラブ活動にも参加できるよう配慮し、休暇でリフレッシュできるよう努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、職員教育に関して熱心に対応している。そのため、個々の能力に合わせた研修参加や目標の設定及び資格取得に力を注いでいる。各自が責任感や向上心を持って職務にあたるよう、運営者と共に向上心の持てる職場環境を継続させたい。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者を中心としたケアを日々行う上で、入居時の情報収集は不可欠である。ご本人または、ご家族の入居に対しての不安やニーズは出来るだけ時間をかけ、お話を聞く時間を設けている。現在利用しているサービス事業所にも情報を確認している。サービス利用に至るまでの時間も大切な時間として今後も関わりたい。	○ 在宅生活を一生懸命続けてこられたご家族にとって、入居を境に生活の状況が変化することになる。そのため、ご家族の生活パターンやお気持ちを少しでも大切に、今後も、ご家族の話にケアのヒントを頂くなど、より良い関係を継続できる努力をしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者を中心としたケアを日々行う上で、入居時の情報収集は不可欠である。ご本人または、ご家族の入居に対しての不安やニーズは出来るだけ時間をかけ、お話を聞く時間を設けている。現在利用しているサービス事業所にも情報を確認している。サービス利用に至るまでの時間も大切な時間として今後も関わりたい。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要であるサービスについては、ご相談を受けた後、カンファレンスを開催し対応している。今後も、必要であるサービスやニーズについては、ご家族のご協力を頂きながら対応してゆきたい。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心したサービスを提供できるために、同敷地内のデイサービスを利用していただくことや、入居判定の際に馴染み度を設け、入居後もサービス提供が安定した状態であるために、ご家族と相談しながら入居に向けた取り組みを実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で、職員側が教わる場面が多くある。喜びや悲しみ・思い出を分かち合っている。介護だけを提供する場ではなく、共に生活し人生の先輩として尊重できる環境をこれからも継続させたい。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの中で、ご家族と共に入居者を支える関係を大切にしている。ケアをする中で、ご家族のご協力を得ることで、より良いケアになると考える。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居後もご家族とのより良い関係が継続できるよう、ケアの中にご家族の意見を取り入れ、ご家族と情報を共有できるよう支援する。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が築いて来られた馴染みの関係が大切な関わりであることを職員は理解し、関係が途切れないように、カムさあに来られた場合には、飲み物などをお出しして、居心地の良い空間になるよう大切な時間としている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士で気の合う人間関係を理解しているので、気の合う方同士で話をしていただける空間づくりをおこなうようにしている。リビングが生活の中心になっているので、あえてテレビを置かず人とのふれあいを大切にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、ご本人さんやご家族の方と電話をしたり、手紙のやり取りなど継続した関わりを保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らしの希望が日々叶えられるよう、言動に注意するようにしている。話が出来ない方やご自分の思いを伝えることができない方は、ご家族を通じ、入居者本位でご家族と共に考えるようにしている。今後も、この項目については取り組みを継続したい。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の中にケアのヒントが隠されていると考え、生活歴や暮らしの様式を時間をかけご家族より聞き取りケアプランに反映させている。これまでの暮らしを崩すことなく、カムさあが入居者に合わせケアを提供できるよう、今後も務める。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日2回(8:30、19:00)の申し送りをして状況の把握に努めている。心身の状態はできるだけ早く状況を把握して、ご家族にご相談するなど、総合的な状態把握に努め、必要時は、モニタリングの際に見直すようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者がより良く暮らすことが、一番の課題である。そのため、ご家族とともに職員一同ケアのあり方について連携を図っている。今後も、より良い生活が継続できるよう支援する所存です。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の今を大切に介護計画の見直しには時間をかけている。状況に即すために、発生した課題は、ご家族と職員間で話し合いを行い、敏速に対応できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	できるだけ詳細に記録を書くように指導している。記録用紙は、状態に合わせ、入居者の今に即した記録用紙を作成して使用している。記録を確認し、情報の共有化をした上で、ケアに入るよう指導し、現在、実践できている。今後も、状態の把握には時間をかけ取り組んでゆきたい。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟に対応することを基本方針としている。そのためにも、ご家族にご協力をいただき、要望が叶えられるように努めている。高齢化・重度化が進み、要望を表現できない方が増えているのが現状である。生活の中で発生した要望は、小さくても叶えられるよう柔軟な対応を続けてゆきたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域で自分らしく生活することが理念の一つでもあるため、地域との関わりは、運営する上でも最も重要な課題としてとらえている。民生委員さんをはじめ、自衛消防隊・消防署や地域の寺院にも足を運び、普通に地域で暮らせるよう支援を続けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に合わせ、地域の居宅介護支援事業所と連携をはかり対応している。グループホーム以外のサービスにも対応している。(往診や訪問看護など)		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業の対象者はないが、地域の相談窓口として、運営推進会議やカムさあが地域に向け行っているコミュニティーカレッジなどを通じ、連携を図りながら協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医で対応している。かかりつけ医との関係も大切に、入居者が適正な医療を継続できるよう、医療機関との関係作りは大切にしている。各主治医がカムさあの運営にご協力いただき24時間体制で連携が図れるよう配慮してもらっている。非常に良好な関係が構築できていると考える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>入居者の生命最後の日は、誰にも判らない。そのため、毎日の暮らしをいかに大切に送っていただくかにかかってくる。カムさあとしては、ご家族のご理解をいただき、職員が出来ること、例えば日常些細なことのひと手間に心を尽くすことを毎日に暮らしの中に見出すよう今後も続けてゆきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各自の排泄パターンを理解し、支援できるようにしている。一人ひとりのできることに差があるため、排泄で失敗しないよう工夫している。失敗しないことが自尊心を損なわないことであると考える。排泄に時間がかかる場合は、トイレと一緒に歌を歌いながらトイレに座ることが苦にならず、歌で腹圧がかかる工夫なども行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の状況から入浴回数に制限をかけてきた。しかし、限られた時間内でも、入居者のペースに合わせた入浴タイミングで、1人ひとり時間をゆっくりかけ入浴を楽しんでいただけるよう努力してきた。今後も、楽しく安全に入浴できるよう支援したい。	○	入居者の状況も少し変化したため、入浴回数を見直し、ニーズに即した体制に変更したいと考えている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠パターンが崩れると、妄想・幻覚の原因にもなるため、それぞれの、年齢・身体状況に合わせ生活リズムを検討し、ご家族と相談した上で睡眠パターン(お昼寝を取り込むなど)に配慮している。その他、週1回のシーツ交換・布団干しや睡眠中の温度・湿度の調整も合わせて行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で、気晴らしをしないでよいような生活支援を基本としている。入居者の心身の状況で、出来る力に違いがある為、出来る力を引き出すよう、個々の生活歴を活かした役割となっている。毎日の暮らしの中で、少しでも喜びが増えるよう、職員全員で今後も取り組んでゆきたい。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの金銭管理能力に違いがあるため、個々のご家族と相談した上で、管理方法を選択していただいている。ご自分で管理なさっている方や、必要時、ご家族に持ってきていただくなど、ご家族にご理解いただいた上で、支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の高齢化・重度化に伴い、外出を自ら希望される方は限られている。そのため、出来る限り希望が叶えられるよう努力している。季節の行事にはできるだけご家族にも声を掛け参加していただくようにしている。	○	日々の暮らしの中で気晴らししなくても良いケアを目指している。限られた職員と時間であるため、その範囲内で入居者の身体状況に合わせ、外出する機会を増やしてゆきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全ての外出を、事業所が担うのではなく、ご家族を中心としている。身体状況を考慮しながら、外出支援をおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信手段の制限はしていないが、手紙や電話の通信をご自分で出来る方がいらっしゃらないので、手紙のやりとりは、職員が代筆し、電話は、電話番号を押して取次をするなど、必要な場面において支援できるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者にとって大切な方であるから、来訪された方が居心地良く長居していただけるよう工夫をしている。入居者の希望に合わせ、リビングや居室でゆっくりして頂ける空間づくりを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	*前回の改善項目。 入居者の生活歴や性格などから、身体拘束をしないでのよいケアの実践に取り組んでいる。身体拘束と思われる行為を職員全員で指摘し合いながら、身体拘束をしないケアの取り組みを実践できた。今後も、身体拘束を防止できる取り組みを行ってゆきたい。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び職員は、日中玄関に鍵をかけることへの弊害を理解している。そのため、日中は玄関に鍵を掛けないようにしている。一人で外出される方には、その方の性格や特性を理解した上で、危険を防止できるよう、ケアを通じ未然に防ぐ努力を職員全員でおこなっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	排泄や入浴・記録の保管などプライバシーに関することには職員全員で配慮し、所在の確認・安全面など昼夜を通じ配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の心身の状況により危険因子が異なる。きれいな花であっても時には危険因子になる。そのため、個々の性格や特性や行動範囲に合わせた危険因子を理解し対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	*前回の改善項目。 事故防止には全員で取り組んでいる。事故の起こりそうな場所や入居者の行動範囲を理解し、事故防止に職員全員で情報を共有化し再発防止に取り組んでいる。	○	事故はどこにでも潜んでいるため、今後も、事故防止には職員全員で取り組んでゆきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	*前回の改善項目。事故発生に備え、職員間で話をする場面を見受けるようになった。緊急や急変に対する職員の不安はぬぐいきれないが、職員一人ひとりの学びと成長が少しずつケアの実践につながってきている。	○	緊急時や急変時対応について、職員が抱く不安は継続的なものとする。そのため、今後も機会を見つけ勉強会や個々に合わせた学びを深める仕組みを構築したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は毎年行っている。昨年度は、地域の消防団・自治会長にも参加を頂き訓練を行った。火災発生時、地域の方が助けに来られた時に役立つよう、居室と認知症の程度・歩行状態を記した一覧表を作成している。日頃より、防災・防犯意識を職員全員で高める努力を継続してゆきたい。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	些細なことであっても、ケアの方法をご家族と検討・話し合う機会を設けている。その人らしく暮らしていただくための努力を今後も続けてゆきたい。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の心身の状態に合わせ、言動・表情・排泄・食欲から体調の変化をくみ取ることを職員は理解し、ケアの中で実践している。得た情報は、職員間で共有し、その後の変化に対応できるように継続的なケア体制を確立している。必要時は、管理者へ報告し、ご家族への連絡も速やかに行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬事情報を活用し、服薬が正確におこなわれるよう、ケアの中で実践している。服用が適切におこなわれるよう、声に出し日付・名前を言いながら適正な服用ができるよう工夫している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解し、日々のケアで取り組んでいる。心身の状況から積極的に体を動かすことができない方には、食事や水分・乳製品の活用・長くトイレに座って頂くなど日常生活の中で工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは、毎食後、全員の入居者に実施されている。実施方法や実施場所などは、個々の能力や身体状況に合わせ支援ができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の基礎疾患に基づき、食事の量や栄養バランスには注意を払っている。水分は1日1500mlを目標に摂取して頂くケアが実践できている。嚥下の能力が低下した方には、とろみをつけ安全に食事摂取・飲水ができる取組をおこなっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	*前回の改善項目。 昨年度は、感染事例が1例もなく過ごすことができた。今後も、換気をはじめ次亜塩素の活用を継続し、今後も感染予防に努めたい。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理については、出来るだけ買いためしないようにしている。新鮮な国産の食材を調理して食卓にお出ししている。調理器具についても消毒や乾燥に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近所の方には、挨拶をして親しんで頂けるよう努力している。建物の周囲は、季節感が楽しめる草花や木々を植えている。出来るだけ清掃し、玄関に鍵をかけないようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は、自然の光が多く差し込むようにできており、居心地の良い空間づくりを目指している。日中は、音楽をかけリラックスできるように心掛けている。季節を感じることもできる、お花を建物の色んな場所(廊下・居室・リビング・トイレなど)に飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子以外にも、ソファを複数配置している。一人掛けや三人掛けを用意することで、入居者の気分に合わせ座る位置が選べるようになっている。それぞれが、楽しい充実感のある毎日を過ごせるように、これからも支援してゆきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具持ち込みや家具の配置は全てご家族に任せている。ご本人が居心地の良い空間づくりのため、ご家族にはご理解とご協力をいただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、起床時に居室の換気を行っている。温度・湿度には気配りを行い、湿度が低い時には加湿するなど、日頃の生活の中に組み込んでいる。暖房・冷房を使用しすぎると体調の変化にもつながるので、衣服で調整することが多い。今後も、体調管理には十分注意を払って、健康で楽しい生活を送っていただけるよう努力したい。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせた安全な環境づくりを目指している。今後も、身体状況の変化に合わせ、自立した生活が送れるよう支援してゆきたい。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのわかる力を活かした工夫をしている。カレンダーは大きな字のものを選り、タンスには何が入っているか記載するなど個々の自立に合わせた工夫をしている。職員は、個々のわかる力を理解し、ケアの実践にあたっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周囲には、実のなる木を多く植え、果実の生長を楽しめるようにしている。テラスでは、お茶を飲みながら歌を歌うなど、季節感を楽しみながら過ごせる空間になっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の皆さんとご家族ならびに入居者を取り巻く皆さんと職員とがお互いに力を合わせ、お一人おひとりが自分らしく暮らすことができる場所になっている。入居者の皆さんが愉しく自分らしく過ごすことができるよう職員一丸となりケアにあたっている。昨年度は、看取り介護が3例あり、人生の幕引きで学ぶ機会に出会った。看取介護に携わらせて頂くにあたり、それぞれの入居者の方が生前、私たちに下さった大切な『心』を職員が理解し、それぞれの学びに繋がっているように思える。人と人の出会いや別れを通じ、介護を提供するだけではなく、入居者の皆さんから頂いた『想い』を次の入居者の方と共有しながら新しい学びができるよう、共に暮らしてゆくなかで、自然に寄り添うことのできるより良い関係を構築したいと考えている。その人らしく平穏に普通に暮らすことは、ご家族のご理解なくしては実践できません。個々の職員が視野を大きく広げ、入居者もそのご家族も、また、職員も自分らしく生きることができる大切な出会いの場として、今後も、入居者を中心とした暮らしを支援してゆきたい。